

訳者のことば

あなたは、一般の人々や他分野の研究者に向かって研究をプレゼンテーションしている。聴衆の反応が全くない。本当にわかってもらえているのか、と思ったことはないだろうか？ 多くの研究者、大学院生がこのような経験をしたことがあると思う。

どうすれば、聴衆に研究を理解してもらえるのか？ 本書は、人がどのようにして物事を理解するかを述べ、その問いに答える。答えは、ストーリーだ。古くから人々はストーリーを通して世界の出来事を理解してきた。科学の成果も世界の出来事である。ならば、ストーリーに乗せて科学の成果を発表すればよい。これが本書の要点となる。幸い、ストーリーには型がある。ならば、その型にあてはまるように研究の成果を整理し、プレゼンテーションを構成すればよい。本書では具体的な型として、3段構造、5段構造、And-But-Therefore (ABT) 構造を紹介する。特に、ABT構造は、エレベーターピッチとよばれる短いプレゼンテーションから、1時間に及ぶ長いプレゼンテーションまでをカバーできる。読者が型をスムーズに身につけられるよう型ごとに練習問題もある。ぜひ、一度本書で身につけられるストーリーの型を意識してプレゼンテーションを構成してもらいたい。

ストーリーで物事を伝えるということは、あらゆるコミュニケーションに通用するだろう。あなたが教員であれば、ストーリー性をもたせた授業を構成できるかもしれない。就職活動中の学生であれば、エントリーシートの作成や面接での受け答えに活用できるかもしれない。

そういった意味で、本書は科学プレゼンテーションだけではなく、コミュニケーション全般を考えるうえでたいへん参考になると思う。研究者が実際にプレゼンテーションを準備するときだけでなく、大学・大学院でのプレゼンテーションの教科書としても十分に耐える内容になっている。ぜひ、ご活用いただきたい。

最後になりましたが、翻訳の企画段階から相談に乗っていただきました羊土社の吉田雅博さん、そして、編集作業で数々の有益なコメントをいただきました今城葉月さんに心より御礼申し上げます。

2023年8月

庫本高志